

株式会社 **アイニックス**<sup>®</sup>

# 2018年度 環境活動レポート

(対象期間 2018年4月1日～2019年3月31日)

発行 2019年7月24日

## 目次

1.環境経営方針・行動の指針	3
2.組織の概要	4
①事業者名	
②所在地	
③環境管理責任者	
④事業規模	
⑤事業の概要	
⑥認証・登録範囲	
⑦会社沿革	
⑧環境保全組織図	
⑨当社における環境保全活動明細	6
3.主な環境負荷の実績	7
4.昨年までの環境目標および実績	7
5.環境経営目標	7
6.環境経営活動の取り組み実績と評価	8
7.代表者による見直し	8
8.環境関連法規への違反、訴訟等の有無	9
9.次年度の取組	9

## 1.環境経営方針・行動の指針

### 株式会社アイニックス

#### 環境経営方針

株式会社アイニックスは、ケーブルアッセンブリーの製造を通じた地球環境の保全が重要な課題であり、これをチャンスと捉え、環境に関する法規制を遵守し、全社員が一丸となって環境負荷の低減を推進する。

#### 行動の指針

- ①事業活動における、CO<sub>2</sub>排出量削減・廃棄物排出量の低減に努める。
- ②すでに実施しているコピー用紙の両面使用の徹底、および廃棄物の分別などをはじめとした資源の有効利用を通じて、環境と経済の両立を図りながら3R（廃棄物の発生抑制（リデュース Reduce）、再使用（リユース Reuse）、再生利用（リサイクル Recycle））を推進し、継続的改善に努める。
- ③環境保全教育を社員に実施し、環境方針を周知徹底させるとともに、環境保全の意識が各社員の家庭にまで浸透することを喜びとする。
- ④環境方針および環境レポートは積極的に開示する。

2018年12月3日

代表取締役

百瀬 勇吉

## 2. 組織の概要

### ①事業者名

株式会社アイニックス

代表取締役 百瀬 勇吉

### ②所在地

長野県塩尻市広丘野村 1496

TEL 0263(54)2535

FAX 0263(54)4787

e-mail aks@inix.co.jp



### ③環境管理責任者

氏名 大川 東 連絡先は②所在地に同じ

### ④事業規模

資本金 1,000万円

従業員数 15名

延床面積 747㎡

事業年度 4月～3月

売上高 16,100万円 (2018年度)

### ⑤事業の概要

ケーブルアッセンブリーの製造販売

### ⑥認証・登録範囲

全組織・全活動

### ⑦会社沿革

1989年 8月 ケーブルアッセンブリーの加工目的に設立

1999年10月 ISO9002認証取得

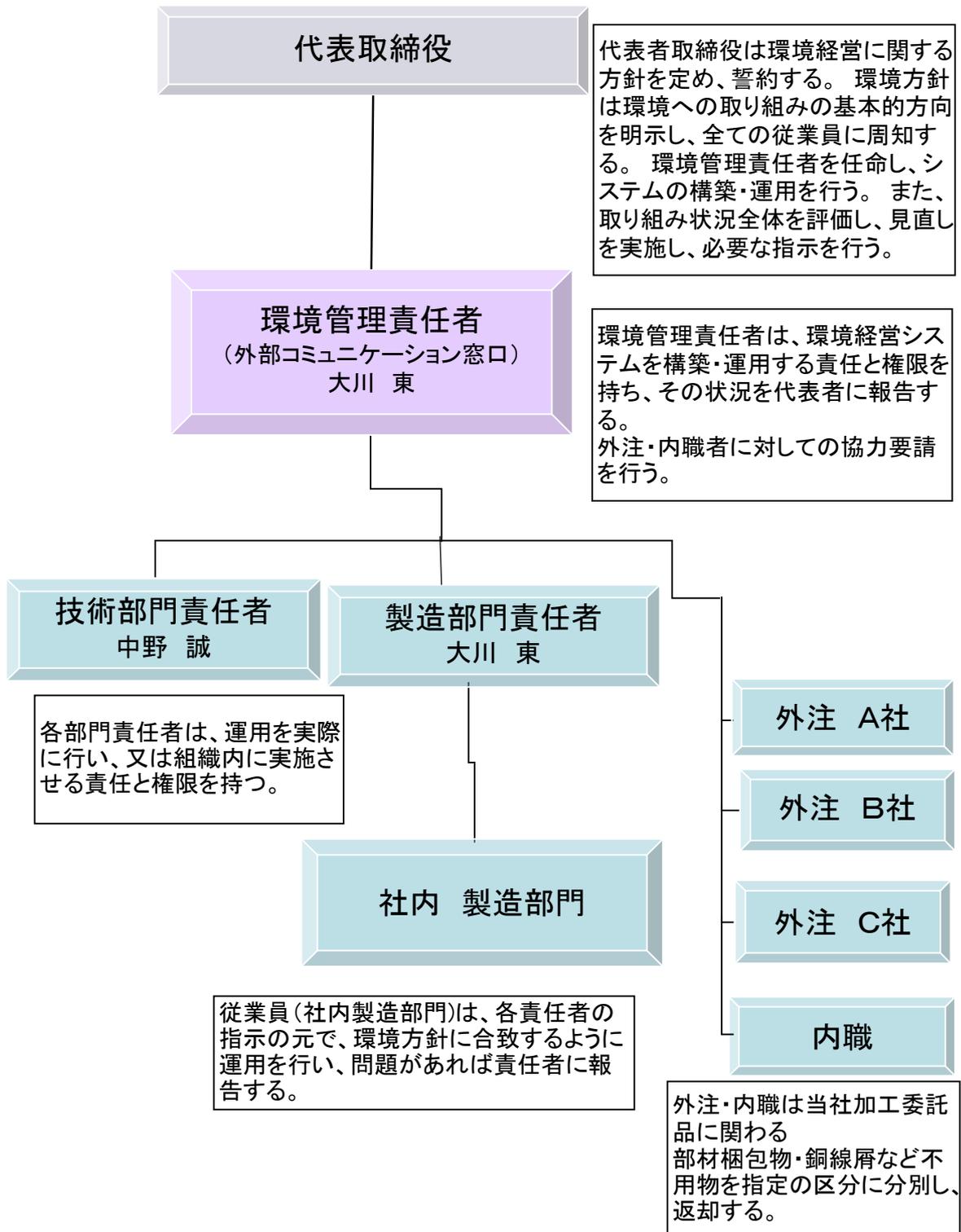
2004年 9月 新社屋建設により移転

2007年 3月 エコアクション21認証取得

2017年10月 ISO9001:2015認証更新

2019年 3月 エコアクション21認証更新(ガイドライン2017)

⑧環境保全組織図(責任権限と役割)



⑨当社における環境保全活動明細

	開始	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019
<b>省エネ</b>											
給湯器屋内設置	2004										→
省エネ型空調設備	2004										→
省エネ エアコン吹出し方向調整ツール設置	2006										→
扇風機の補助使用	2006										→
中間期の窓開放(網戸追加)	2005										→
インバータ照明器具	2004										→
故障時、内部インバータ部品のみ交換し使用	2018									○	→
人感センサー&タイマーSW	2006										→
エアコン運転中表示札の設置	2010	○									→
断熱のための中ドア設置	2004										→
外灯 フォトセンサー+タイマーによる節電(17:00~20:00)	2004										→
2階廊下照明に明かりセンサー追加	2011		○								→
工場内照明器具OFF 6/36台	2011		○								→
倉庫内照明器具OFF 6/17台	2011		○								→
倉庫内照明回路分け 8灯を半分	2011		○								→
休憩・残業時など不要部の消灯徹底	2018									○	→
給湯器の夏場の電源OFF	2011		○								→
サーバーPC 省エネ型の選択	2012			○							→
OA機器更新時 省エネ型の選択	2013				○						→
仮想サーバーPC連休時の電源OFF	2016							○			→
<b>省資源</b>											
コピー裏紙の使用	2001										→
コピー用再生紙(古紙パルプ配合率)	2015							→ 40%			→
納品書 FSC認証紙	2008	○									→
社用封筒再生紙 → FSC認証紙	2015							→ FSC			→
名刺 古紙配合率100%紙使用と記載	2007										→
化粧箱ラベル FSCミックス紙認証使用品	2011		○								→
<b>環境負荷の少ない燃料の使用</b>											
オール電化	2004										→
<b>日常業務での配慮</b>											
空調区域・時間で限定使用	2004										→
事務所照明不使用部OFF 6/12台	2004										→
<b>化学物質</b>											
社内化学物質の把握	2004										→
特定フロン回収、廃棄時適性処理を推進するためラベルの貼り付け	2010	○									→
<b>製品に関わるアセスメント</b>											
顧客からの環境負荷物質調査報告対応件数		36	37	63	45	74	48	66	39	75	継続
<b>廃棄物</b>											
弁当空容器回収業者を使用	2004										→
詰め替え式マジックの採用	2008	○									→
仕入れ箱の再利用	2004										→
紙・ビニールプラ・銅線屑・アルミ・金属など分別の推進	2005										→
マニフェストによる適正な処理	2006										→
<b>オフィスにおけるエコ活動</b>											
コピー機プリンターカートリッジのリサイクル	2004										→
環境に配慮した事務用品購入	2015							○			→
<b>生産工程におけるエコ活動</b>											
梱包箱・緩衝材のリユース	2004										→
銅線屑リサイクル業者へ販売	2001										→
<b>輸送合理化工夫</b>											
輸出入パレットの繰返し利用	2005										→
<b>車両使用における配慮</b>											
排ガス・騒音防止のため定期車両整備	2001										→
<b>水の効率的な利用</b>											
雨水浸透升を使用	2004										→
手洗い等節水の励行(表示にて)	2004										→
節水のための自動水栓設置(トイレ)	2004										→
水道配管からの漏水定期点検	2010	○									→

### 3. 主な環境負荷の実績

項目	単位	2016年	2017年	2018年
二酸化炭素排出量※	kg-CO <sub>2</sub> /年	29,107	33,990	26,923
廃棄物排出量	トン/年	0.95	0.95	0.95
一般廃棄物	トン/年	0.15	0.15	0.16
産業廃棄物	トン/年	0.80	0.80	0.82
水使用量	m <sup>3</sup> /年	144	156	152

※ CO<sub>2</sub> 実排出係数は 2015 年度中部電力調整後排出係数 0.482(kg-CO<sub>2</sub>/Kwh) にて算出しました。

### 4. 昨年度までの環境経営目標及びその実績

項目	年度	2015年	2017年		2018年	
		(基準年度)	(目標)	(実績)	(目標)	(実績)
CO <sub>2</sub> 排出量削減 ※	全 CO <sub>2</sub> 削減(kg-CO <sub>2</sub> )	27,942	28,145 ±10%	34,254 +21.7%	33,990 ±10%	26,923 -20.8%
一般廃棄物の 再使用・再生化	再使用・再生化率(%)	93	93±1	91	93±1	91%
水使用量	一人当たり使用量 (m <sup>3</sup> /月)(排水量相当)	0.643	0.643± 5%	0.682	0.682± 5%	0.671
工程不良の削減	工程不良率(%)	0.82	-	0.82	0.75 以下	0.50

※ CO<sub>2</sub> 排出係数は 2015 年調整後排出係数 0.482(kg-CO<sub>2</sub>/Kwh) にて算出しました。

### 5. 環境経営目標

項目	年度	2015年	2019年
		(基準年度)	(目標)
CO <sub>2</sub> 排出量削減 ※1	全 CO <sub>2</sub> 排出削減(kg-CO <sub>2</sub> )	27,942 (25,857)	25,857 ±10%
一般廃棄物の 再使用・再生化	再使用・再生化率(%)	93	93±5%
水使用量	一人当たり使用量 (m <sup>3</sup> /月)(排水量相当)	0.668	0.682±5%
工程不良の削減	工程不良(%)	0.82	0.70 以下

※1 CO<sub>2</sub> 排出係数は 2015 年調整後排出係数 0.482(kg-CO<sub>2</sub>/Kwh) にて再算出しました。

( )内は、プラ再生を規定通りに調整したものです。

## 6. 環境経営活動の取り組み実績と評価

取り組み計画	達成状況	評価結果
<b>CO<sub>2</sub> 排出量削減</b> ・省エネ目標説明 ・排出物分類表の啓発 ・新規外注及び新規な移植への協力依頼	目標: 33,990kg-CO <sub>2</sub> (2005 年度比 △10%) 実績: 26,923kg-CO <sub>2</sub> 率 : -21%(実績/目標)	達成○ 廃プラを計上していた為、途中から除外し、電気・GS 使用量の見の集計となり、その分達成幅が大きくなっている。その排出についても、電気の使用量が稼働日の関係からか、減少している。
<b>廃棄物の再使用・再生化率の向上</b> ・紙類の分別の徹底 ・両面コピーの推進 ・段ボール箱資源化業者への供出	目標: 93%±1% (2005 年度比 160% up) 実績: 91% 率 : -2%(実績/目標)	未達成× 生産量の落ち込みによるバラツキへの影響と、主要顧客からの支給方式変更に伴い、廃棄する量が若干増えている事が要因。
<b>水使用量の削減</b> ・水道水削減目標説明 ・節水呼びかけ ・節水プレート貼り付け	目標: 0.682 m <sup>3</sup> /月人 (2005 年度比△4%) 実績: 0.671 m <sup>3</sup> /月人 ±5% 率 : -1.6%(実績/目標)	達成○ 極端に増減はしておらず、良好と思われる。
代表者による全体評価と見直しの結果 ・活動の結果、廃棄物の再使用・再生化率の向上は目標未達成となりました。 大きな変動では無く、バラツキの幅を再検討します。 ・環境目標、環境活動計画の基準年を 2015 年に更新いたします。(従来基準年度 2005 年) ・環境経営システムについては継続推進します。		

## 7. 代表者による見直し

### 1) 取り組み状況

環境関連法規については、遵守されています。  
 是正処置の必要な状況は発生していません。  
 これにより、環境方針は継続とします。

### 2) 目標・環境計画の達成状況

廃棄物の再使用・再生化率の向上は、数値上 1% の未達成でした。活動開始時期に比べ、近年は生産量が大幅減少となり、それに伴って仕入材料も減少しており、箱の再使用・再生に与える、ばらつきが大きくなっていると考えられ、範囲を広げる検討を行います。今後も、目標達成に向けて工夫を重ねて対応します。

### 3) 周囲の変化状況

外部コミュニケーション記録よりクレーム等は無く、法規制そのものについても当社範疇では変更は無いので、環境経営システム自体は継続して運用します。

## 8. 環境関連法規等の遵守状況の確認及び評価の結果並びに違反、訴訟等の有無

適用される環境関連法規

当社の事業活動に伴い適用される環境関連法規等は、次の通りです。

適用される法規制	適用される施設等	遵守評価
騒音規制法	空気圧縮機	○
振動規制法	空気圧縮機	○
廃棄物の処理及び清掃に関する法律	保管基準・マニフェスト管理等	○
消防法(危険物)	危険物保管等	○
フロン排出抑制法	エアコン/コンプレッサードライヤー	○

環境関連法規への違反はありません。

当社は、環境管理責任者が中心となり法規の遵守状況についてチェックを行い、現在及び過去3年間、問題の無いことを確認いたしました。又、同様に関係機関および近隣の住民から指摘・苦情・訴訟は一件もありませんでした。

内容	過去3年間の結果
法律違反の有無	無
訴訟の有無	無

## 9. 次年度の取組

- ① CO2 排出量削減 → 排出エネルギーの元として、電気・GS が挙げられるので、2018 年度比 ±10%とします。(26,923kg-CO<sub>2</sub>)
  - ・計画節電の実施(未使用時、不要箇所の電灯 OFF・温水器の夏期 OFF)
  - ・廃棄物分別を徹底(新規内職者・新入社員等への教育・定期監視)
  - ・社内不適合の削減によるエネルギーロスの低減活動
- ② 廃棄物の再使用・再生化率の向上 → 基準年比 ±3%を維持します。
  - ・分別による古紙のリサイクル推進
  - ・両面コピーの推進
  - ・入荷部材梱包箱のリユース
- ③ 水使用量の削減 → 昨年同様、実績 ±5%を目標とします。
  - ・節水の呼びかけ
  - ・節水プレート表示による意識付け
- ④ 環境性能の向上に寄与する製品の製造 → 工程不良の削減
  - ・不良削減による修理時間の短縮(間接的 CO<sub>2</sub>の削減)